

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2015. 3.31 No.52

Japan Association of College and University

Archives : Eastern Japan Division

目 次

- ・ 桜井 昭男「自校史の可能性― 2014 年度全国大学史資料協議会講演会を聞いて―」…… 1
- ・ 酒井ふみよ「全国研究会（テーマ「学内業務文書の管理と活用」）に参加して」 …… 3
- ・ 古俣 達郎「第92回研究会（東京都公文書館）に参加して」…… 5
- ・ 大坪 潤子「第93回研究会報告（齊藤研也氏・窪田涼子氏・昆政明氏）を聞いて」 …… 6
- ・ 全国大学史資料協議会 2014 年度総会議事録・講演記録 …… 8
- ・ 全国大学史資料協議会 2014 年度役員会議事録 …… 9
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録 …… 10
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録 …… 12
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿 …… 16

2014 年 10 月 8 日～ 10 日 全国大学史資料協議会 2014 年度総会ならびに全国研究会・講演

自校史の可能性― 2014 年度全国大学史資料協議会講演会を聞いて―

淑徳大学アーカイブズ 桜井 昭男

今年度の全国大学史資料協議会の講演会は、奈良女子大学の野村鮎子氏による「自校史としての留学生史の可能性―奈良女子高等師範学校留学生関連史料と桃山学院史料室資料を中心に」という講演であった。

現在、大学および学園にとって「自校（史）教育」は重要かつ喫緊の課題であるといっても過言ではなく、それぞれの大学・学園により多様な取り組みがなされている現状において、私に限らず、おそらくこの講演会に参加された方々はみな大きな関心を持たれていたのではないだろうか。以下、講演の概要をたどりながら、感想めいたことを述べさせていただきますと思う。

本講演の対象となっている奈良女子大学の前身奈良女子高等師範学校（以下、奈良女高師と略称）は、明治 42 年（1909）に現お茶の水女子大学に次いで開校された、当時の女子の最高学府のひとつで、20 世紀に入ると現中国地域や朝鮮、台湾から多くの留学生を受け入れていた。

本講演は、これら留学生に関する資料に焦点を当てているが、これまでの奈良女子大学の年史では、十分に引き上げられてはなかったという。しかし、近年ジェンダーの視点も含めた女子留学生史研究の進展を受け、奈良女子大学においても元留学生への聞き取り調査をおこなったり、学内外に残る校史

関連資料の調査を実施し、その成果の一部は奈良女子大学学術情報センターの Web で公開されている。

本講演では、これらの資料調査の成果から、まず留学生の受け入れ状況として年度ごとの地域別留学生数を紹介された。奈良女高師には「正科生」と「特科生」の区別があり、植民地人や外国人は一律「特科生」として受け入れられた。「特科生」には「聴講生」と「専科生」があり、のち大正 14 年（1925）には中国地域の留学生を対象とした予備教育機関として「特設予科」が設置される。この「特設予科」の設置や出身地からの奨学金制度の存在、さらに社会事業家柳原吉兵衛による留学支援（とくに朝鮮人留学生）などにより、奈良女高師には多くの留学生が集中することとなったのである。

社会事業家柳原吉兵衛は、キリスト教の人道主義に基づいて「内鮮融和」を唱え、朝鮮女子教育の推進に尽力し、奈良女高師をはじめとした女子留学生を物心両面で支えていた人物であるが、彼に関する資料は平成 3（1991）～10 年（1998）にかけて、吉兵衛の三男柳原貞次郎氏により桃山学院史料室に寄贈され、現在同資料室において閲覧することができる。これは貞次郎氏が日本聖公会大阪教区主教を務め、また桃山学院の理事を務めていたことによるものであった。

奈良女高師における朝鮮留学生の受け入れ交渉や留学生の課外活動の支援の様子については、現在奈良女子大学が所蔵している「教官会議記録」や「評義会記録」などの諸資料から明らかにすることができるが、それらはさらに桃山学院史料室が所蔵する「柳原吉兵衛関係資料」に含まれている『向上』や『桜権の華』記載の記事や各種書簡類、写真などによって裏付けることができるという。



講演する野村鮎子氏

各大学および学園では、大史協のこれまでの活動の成果もあって、現在盛んにそれぞれの大学・学園に関連するさまざまな資料が収集・保存されているが、それらが単に一つの大学・学園にとどまらず、相互に利用可能な資料として活用されていることは、今後の資料収集・保存・利用活動にとって大きな示唆を与えてくれるものであるといえるが、野村氏は本講演の最後に、今後の課題として次の 2 点を指摘している。

まず第 1 点として、自校史としての留学生研究の難しさをあげている。奈良女子大学の大きな特徴の一つとしてあげられる留学生について、これまで示してきたように種々の調査・研究が積極的に行われてきたからこそ、そこに存在する課題が明らかになってきたわけであるが、その中で自覚されたこととして、まず留学生に関する制度が複雑であることがあげられている。ここでは、留学生政策自体が当時の国策と連動してその変遷が複雑であること、また文部省の留学生関連例規に遺漏があることによりその変遷を跡付けることが難しいこと、さらに植民地とそれ以外の地域で適用される規則が異なるといった問題が指摘されている。

これらの問題は、さらに広く制度研究および個別研究を進めていくことによって明ら

かにしていかなければならないことであるが、より大きな論点は次の第2点目であろう。すなわち、「留学生史の可能性」の問題である。野村氏は、留学生史研究を進めていくための方向性として、①国際関係史として、②民間交流史として、③地域史として、の3点をあげているが、①の国際関係史についていえば、この問題は戦前に限定される問題ではなく、現在にいたる問題として捉えなければならない事柄である。「グローバル化」が叫ばれ、国内的にも少子化が進むなかで、留学生をめぐる問題はますます重要性を増してきている。このように留学生を取り巻く状況は常に変化しており、その点について歴史を踏まえた議論を進めることによって、留学生史は国際関係史としてさらに問題点を明確化できることになるのであろう。

②の問題でいえば、まさしく本報告で取り上げられた柳原吉兵衛など、民間人の取り組みのあり方を掘り起こすことが重要となるであろうし、③の地域史の問題は、①と②の間

題がどのようにそれぞれの大学・学園が所在する地域で展開したのかを見つめる作業ということになり、これらの視点を総合することによって、地域から世界にいたるトータルな視点のもとに留学生史が展望できることになる。このことがすなわち野村氏も指摘したように、自校史から始まりながらも「自校史にとどまらぬ広がりを持つ留学生史」という意味であるといえる。

本講演の論題は「自校史としての留学生史の可能性」であったが、実際に報告を聞き進むにつれて、むしろ各大学・学園の持っている素材をもとにした「自校史の可能性」という点に心を奪われていった。最初に述べたように、現在「自校（史）教育」は重要かつ喫緊の課題であり、それぞれ大学・学園の特徴を生かしてさまざまな取り組みがなされているが、それぞれの素材をもとにどのような形で自校史を展開させることができるのか、大変重要な論点を教えていただくことができた講演であった。

全国大学史資料協議会 2014 年度全国研究会

全国研究会（テーマ「学内業務文書の管理と活用」）に参加して

2014 年度全国大学史資料協議会総会ならびに全国研究会は、10 月 8 日から 10 日までの3日間、大阪で開催された。9 日に大阪大学豊中キャンパスで行われた全国研究会のテーマは「学内業務文書の管理と活用」であった。発題を会長である広島大学文書館の小池聖一氏より伺った後、

① 村上 淳子氏（広島大学文書館）

「広島大学文書館における法人文書の管理と活用」

東洋英和女学院史料室 酒井 心みよ

② 西口 忠氏（桃山学院史料室）

「学内業務文書の活用を考える」

③ 桑尾 光太郎氏（学習院アーカイブズ）

「学内事務文書をどのように把握・整理するか—学習院における試み」

の三氏のご報告があり、その後総括討論が行われた。

発題において示されたことは、— 2013 年東大文書館が国の重要文化財と指定され、大学における文書館の存在がクローズアップさ

れた。公文書管理法が適用されるのは国立大学であるが、アーカイヴズがあるのは7大学にとどまる。私立大学には適用されないとはいっても保有する資料は同じように国民の知的資源である。かつてこの全国総会において白熱した議論が行われた「公文書管理」の問題であるが、いまだ移管のシステム化は多くの機関において遅れており、システム化は急がねばならない。それにはどうしていったら良いか、アーカイヴズの重点をどこにおいたらよいだろうか—というものであった。

① 村上淳子氏による広島大学文書館の場合

広島大学では、本年（2014年）より文書管理業務が財務・総務室総務グループから文書館に移行された。すなわち、法人文書を、保存期間満了後のみならず期間内の管理も担当することになった。一般にはアーカイヴズというと、歴史的資料と廃棄後の文書の管理が対象と考えられる中で、広島大学では文書管理を統一的に行う機関として、文書館が位置づけられることになったわけである。そこで、広島大学で行われている文書管理業務、法人文書選別移管作業について具体的な説明があった。

膨大な資料の移管が周到な準備のもとにシステム化されて行われている先進的大学アーカイヴズの様子がうかがわれた。

② 西口忠氏による桃山学院史料室の場合

桃山学院では組織の改革、事務業務の近代化、移転などを経てきたが、文書処理規定が定められた後も事務方において学内業務文書の管理は不徹底であった。近年収納の問題から文書の処分、ファイルの整理が切実な問題となり、勉強会と調査を開始、新たな文書取扱規程が2012年より施行された。

学院の通称名や創立記念日その他大事なことが、過去の記録を丹念に当たれば解決する



総括討論の様子

のに、問い合わせもなく学内の会議で議論になったことがあった。学内各部署や卒業生からの問い合わせが多いが、さらに史料室所蔵の資料はもっと研修や授業にも役立つはずだと考えている。

チェック機能も持ちつつ、記録の大切さを教職員に理解してもらい活用されるようにして行きたいとの言葉に、前日の見学と合わせ、学院のご意見番として機能してこられた史料室の存在感に敬意を覚えた。

③ 桑尾光太郎氏による学習院アーカイヴズの場合

学習院アーカイヴズにおいては、機関アーカイヴズと収集アーカイヴズの両者を目的として合わせ持つ。そして、2013年に学内の文書取扱規定の改正に伴い、文書管理・整理に関しても一歩踏み込んで作業を代行することにより、他部署の業務改善を手助けした。しかし、収蔵・作業スペースの問題、教員組織における文書管理の不徹底など課題は山積している。

移管以前の文書ファイルの作成にアーカイヴズが取り組むことは業務領域ではないと理解しつつ状況を動かすために踏み込み、一定の成果は上げながらも、本来の業務との兼ね合いや選別方法に悩む現状報告に、まさに多

くの者が共鳴したのではないかと思われた。

総括討論では、ご報告のあった各館に向けての文書管理業務と資料館的業務の兼ね合い、業務に関わる職員の身分、資料の選別・廃棄の基準、電子記録の保存などに関し、質問・回答を基に討論が行われた。

ところで筆者の勤める史料室では、学内の文書の収集は記録として最低限必要なものすらスムーズにはいかない現状であり、学内文書規程のようなものは見たこともない。壇上で報告される事例には感心して拝聴するばかりであった。しかし、まとめで話されたように、今後大学アーカイヴズは、収集プラス機

関アーカイヴズとして総合的に向かっていくであろう。私立学校は文書管理に関して法律的な縛りはないが、だからこそきちんと方針を立て、個別の個性、多様性をもってそれぞれが方向性を考えていくべきであろう。そして学内の業務に役立つことを通じていかに学内に浸透していくかが問われている、というご指摘に救いを覚えた。後進の史料室であるが、研究会の意義を改めて感じ、他校の情報を得つつ、今後に活かしていきたいと切に願うものである。

ご報告にあたられた三氏と、運営にあたられた多くの皆様に感謝申し上げます。

2014 年 12 月 14 日（木） 研究会

第 92 回研究会（東京都公文書館）に参加して

法政大学史センター 古俣 達郎

第 92 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は 2014 年 12 月 4 日（木）14 時から、東京都公文書館にて開催された。東京都公文書館は、山口県立文書館、京都府立総合資料館に続いて、日本で三番目に古い公文書館であり、1968 年 10 月に開設された。開設当初から長らく、港区海岸（竹芝庁舎）に位置していたが、2012 年から廃校となった都立玉川高等学校の旧校舎（世田谷区玉川）に仮移転をしており、2019 年に西国分寺に正式な移転を予定しているとのことである。研究会においては、東京都公文書館史料編さん係係長西木浩一氏、同担当係長佐藤佳子氏のお二人から報告があった。

西木氏の報告（「東京都公文書館の沿革と所蔵資料の構成」）は、東京都公文書館の沿革と同館の所蔵資料に関するものであった。



佐藤佳子氏の報告を聞く参加者

西木氏によれば、同館の所蔵資料の中核をなしているのは、明治期以来の東京府および東京市による文書管理業務と修史事業において整理・収集された資料群であり、2014 年 8 月 21 日には、これらの内、「東京府・東京市行政文書」33,807 点が、国の重要文化財（美術工芸品〈歴史文書〉）に指定されたとのことである。西木氏の報告の中で、このよう

な貴重な文書類が、戦時下の空襲を乗り越えて、奇跡的に遺されているのは、当時の職員たちが交通局に掛け合い、都バスで埼玉県まで文書を疎開させるなど献身的な努力あったからである、とのエピソードには歴史に携わる者として深い感銘を受けた。

西木氏の報告に続いて、佐藤氏からは、「学校施設の転用による公文書等の保存管理について―東京都公文書館の場合―」と題して、同館の仮移転を事例として、学校施設の建築構造に起因する資料の保存環境の問題について、報告がなされた。佐藤氏が挙げた問題は多岐に渡ったが、とりわけ、学校建築においては開口部（窓・非常口・昇降口・野外への出入り口）が非常に多いため、温湿度管理が困難であること、また、風雨や虫など外的な侵入者を防ぐことも難しく、資料保存上のリスクが非常に高いという点を強調されていた。実際、暴風雨の際には、文化財書庫が浸水してしまったとのことであるが、同館は予算的に最低限の保存設備費用しか認められず、資料保存環境の整備には、大変苦心をされたとのことであった。佐藤氏はこのような経験をもとに、学校施設の特性を踏まえた改修・設備設計のポイントとして、以下の8点を挙げられた（以下、佐藤氏のレジュメによる）。①開口部のすき間対策（窓は全てす

き間！）、②外光・外熱遮断、③ガス・水道の遮断やトイレ・水場の閉鎖、④壁面の断熱性向上（例：二重壁など）、⑤床面耐荷重を考慮した什器設計、⑥上下階の移動手段、⑦空調設計 24 時間 365 日の稼働を前提、⑧徹底した「清掃」（天井・壁面・什器裏・床材のすき間）。

収蔵環境や施設の問題に関しては、多くの加盟校が直面している切実な問題である。本学においても、未だ適切な収蔵施設を設置できていないが、今後、何らかの収蔵施設の設置を検討している学校、もしくは同館のように、一時的に、収蔵施設の移転を余儀なくされる場合（例えば、キャンパス移転や校舎の改装など）に、同館の事例は先例として大変参考になるだろう。最後に、佐藤氏から保存環境・設備に関する有益な文献として、以下の二書が示されたことを付記しておく。いずれも、実践的な内容を豊富に盛り込んだアーキビスト必携の好著である。

Wilsted, Thomas P. (2007) *Planning new and remodeled archival facilities*, Society of American Archivists.

Pacifico, Michele F. and Wilsted, Thomas P. (eds) (2009) *Archival and Special Collections Facilities: Guidelines for Archivists, Librarians, Architects, and Engineers*, SAA.

2015 年 1 月 22 日（木）研究会

第 93 回研究会報告（齊藤研也氏・窪田涼子氏・昆政明氏）を聞いて

神奈川大学 大学資料編纂室 大坪 潤子

本研究会では、2014 年 3 月に開設された神奈川大学展示ホール内の 3 つの展示室について次のとおり報告がなされた。

① 齊藤 研也氏（神奈川大学大学資料編纂室）

「創立者・神奈川大学史展示室について」

② 窪田 涼子氏（神奈川大学日本常民文化研究所）

「神奈川大学日本常民文化研究所展示室

について」

③ 昆 政明氏（同上・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科）

「企画展示室・近藤友一郎和船模型の世界について」

これらの報告について、当の神奈川大学にいる身ではあるが、開設後からの新人として率直なところを述べたいと思う。

神奈川大学展示ホールは、本学が2028年の創立百周年に向けて建設した新館（3号館）の完成と共に、その1階部分に開設された。窪田氏によれば東日本大震災の影響による工事の延期等もあって展示に関する当初の計画は一時中断し、その後学内のプロジェクトチーム設置から開設までが1年足らず、展示制作期間は約半年。3号館内での場所は既に決められており、ガラス壁面からの遮光、また将来的に元の空間に戻すことも想定して可動壁で囲んだ展示スペースを作ることになったという。展示の構想や制作にかかる時間が充分にあったとは言い難い。

こうした条件の下、ホール入口の創作者・大学史展示室では、大学資料編纂室が同窓会（宮陵会）本部や大学図書館で開催した展示の成果を通史的流れの中でテーマとして活かしたコーナー展示とし「大学の来し方行く末に思いをはせ交流する場」を目指した。

続く日本常民文化研究所展示室も、1921年に始まる研究所の足跡と研究テーマを組み合わせたコーナー展示となっている。途中で大幅に構成の変更をしたそうだが、旧3号館地下にあった常民参考室での展示経験も影響したのではないかと推察される。

企画展示室は、今回は露出展示を基本としており、重量のある原資料を展示するため自立可能な鉄骨入りのパネルを設けた。次の展示ではこれらを撤去する必要があり、作り込



展示ホールを見学する参加者

み過ぎた、という反省を担当した昆氏は述べられたが、可動壁であってもここまで造作に凝れるということは見学者にも驚きだったようである。また昆氏は自身の青森県立郷土館での学芸員経験に基づき、大学は展示の機能を加えれば展示・教育普及・広報という博物館の基本的機能を持つ、とされたが、その実践にふさわしい内容だと言えよう。

いずれも時間や空間の制約に関わらず概ね好評な展示を作り上げることが出来たのは、それまでの調査研究や展示という蓄積、経験があったからに他ならない。

一方、今後の企画展示の計画が定まっていないこと、常設展2室の中に新収資料の紹介といったフレキシブルな展示のできる小コーナーがないことなどから、当面「作ったまま」になりはしないかが懸念される。齊藤氏が指摘したように展示室は多くの学生の通りに道に接しているのも、もっと入りやすくするアピールも必要であろう。

また、質疑応答でも話題にのぼった常設展示での原資料の多さについては、照度や温湿度などの展示環境を現状の制の中で整える工夫、複製品を増やすなどの対策が急がれる。いや、急ぎます。

全国大学史資料協議会 2014 年度総会議事録・講演記録

日 時 2014 年 10 月 8 日 (水)
14 時～15 時 20 分
場 所 桃山学院 昭和町キャンパス
カンタベリーホール
出席会員＜東日本部会＞
学習院 神奈川大学 慶應義塾
恵泉女学園 國學院大學 駒澤大学
淑徳大学 女子美術大学 専修大学
創価大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東北学院 東北大学
東洋英和女学院 富山大学
日本体育大学 日本大学 法政大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明治大学 明星大学 立教学院
立教女学院 立教大学
松崎 彰 (名誉会員)
阿部 伊作 高橋 保 富田 美加
西山 伸 古郡 信幸
＜西日本部会＞
追手門学院大学 大阪国際学園
大阪大学 大阪府立大学 大谷大学
関西大学 関西学院 京都産業大学
近畿大学 熊本大学 甲南学園
神戸女学院 常翔学園 西南学院
同志社女子大学 同志社大学
梅花学園 広島大学
武庫川女子大学 桃山学院 立命館
龍谷大学
井上美香子 大畑 博嗣
落合万里子 橋本 弘之
橋本 唯子 山本 尚史
東日本部会 = 33 会員 50 名
(内訳: 27 大学 44 人、個人他 6 人)
西日本部会 = 28 会員 36 名
(内訳: 22 大学 30 人、個人他 6 人)
総 計 = 61 会員 86 名
(内訳: 49 大学 74 人、個人他 12 人)
欠席届提出会員
東日本部会 = 45 会員
(内訳: 機関 31 会員、個人他 14 人)
西日本部会 = 13 会員
(内訳: 機関 10 会員、個人他 3 人)
全国大学史資料協議会事務局校

(関西大学・伊藤信明氏) が司会となり、総会の開催を宣した。

まず、桃山学院中学校高等学校校長 温井史朗氏から会場校挨拶をいただいた。その後、西口忠氏(桃山学院)から、温井校長紹介の補足があった。次に、全国大学史資料協議会会長(國學院大學・齊藤智朗氏)から挨拶がなされた。

事務局校(関西大学・伊藤氏)から、出席会員数 61 校、委任会員数 58 校で合計 119 会員となり、全会員数 148 会員の過半数を超えているため、規約第 7 条により総会が成立することが確認・報告された。続いて、議長には原田久志氏(明星大学)、副議長には松岡智美氏(大谷大学)が選出された。

議 題 (1) 2014 年度全国大学史資料協議会役員会(報告事項)について

伊藤氏より、本日 13 時から開催され、総会・全国研究会の運営などについての議論・確認がなされたことが報告され、出席者拍手により承認された。

(2) 2014 年度東日本部会・西日本部会事業計画報告(報告事項)について

東日本部会は齊藤研也氏(事務局・神奈川大学)、西日本部会は伊藤信明氏(庶務校・関西大学)から、総会レジュメのとおり報告があり、出席者拍手により承認された。

(3) 2014—15 年度役員の交代について

伊藤氏から、会長を広島大学、副会長を日本大学、事務局を関西大学に交代する旨紹介があり、出席者拍手により承認された。

(4) その他

2013 年度総会ならびに全国研究会の収支報告については、総会レジュメ(9 頁)参照のこと。すでに東西それぞれの部会総会において、承認が得られているとの報告があった。

2015 年度総会・全国大会は、1 日目東北大学、2 日目東北学院大学で

開催予定であることが報告された。

2016 年が全国大学史資料協議会 20 周年にあたるとの紹介があり、何らかのプロジェクトの実施を検討中であること、会員への周知を図ることが確認された。

2013 年度の叢書第 15 号は現在編集集中で、刊行次第配布予定であること、リーフレットも現在改訂作業中で、年度内配布予定であることが報告された。いずれも出席者拍手により承認された。

このほか、特に検討事項がなかったため、議長・副議長を解任し、質疑応答を終了した。

新会長の小池聖一氏（広島大学）から挨拶があり、総会は閉会となった。

講演会 講師 野村鮎子氏

（奈良女子大学文学部教授）

演 題 「自校史としての留学生史の可能性
—奈良女子高等師範学校留学生関連史料と桃山学院史料室資料を中心に—」

〔概要〕 まず、参加者全員に 2014 年 3 月刊行の『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』を御寄贈頂いた。

奈良女子高等師範学校は奈良女子大学の前身校で、女子中等教員〔女子高等学校教員〕需要の高まりを受け、東京の女子高等師範学校に次いで、1909 年 5 月 1 日に開校された学校である。特徴として寄宿舎生活が原則とされていた。また、高等学校という名ではあるが、実質、中等学校の役割を果たしていた。

当時は留学生のほとんどが男子学生だったため、女子留学生を調査するのは大変難しい。ただ、昨今ようやく専門の本が刊行されるようになり、男子留学生の添え物的扱いから脱却し始めている。

調査は奈良女子大学にある校史関係史料や、桃山学院史料室の柳原吉兵衛関連資料などを当たった。柳原は留学生を支援していた人物である。また、元留学生へのヒアリング

調査も実施。

最後に、自校史としての留学生史研究の難しさを語ると同時に、留学生史は国際関係史、民間交流史、地域史としても重要で、自校史にとどまらない広がりをもっていると述べられた。（阿久津朋子）

見 学 桃山学院史料室

案内 西口 忠氏 山田 麻衣氏

玉置 栄二氏

情報交換会 見学会終了後、桃山学院カンタベリー記念館会議室 1 において、情報交換会を開催した。司会は菅真城（大阪大学）が行った。開会挨拶は全国大学史資料協議会会長校の小池聖一氏（広島大学）が、乾杯の音頭は小松修氏（日本大学）が務めた。新規入会会員、全国大会初参加者などの紹介があり、閉会の辞は会場校の西口忠氏（桃山学院）が行った。

全国大学史資料協議会 2014 年度役員会議事録

（第 140 回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会）

日 時 2014 年 10 月 8 日（水）
13 時～ 13 時 30 分

会 場 桃山学院 昭和町キャンパス
カンタベリーホール

出 席＜東日本部会＞

学習院（運営委員）
神奈川大学（運営委員・事務局）
慶應義塾（運営委員）
國學院大學（副会長）
専修大学（会計委員）
東海大学（会計委員）
日本大学（会長）
法政大学（運営委員）
武蔵野美術大学（監査委員）
明治大学（運営委員・事務局）
立教学院（運営委員）
西山 伸（運営委員）

＜西日本部会＞

大阪大学（副部会長校）
関西大学（庶務校）
関西学院（監査校）

同志社大学（会計校）
広島大学（部会長校）
武庫川女子大学（副庶務校）
桃山学院（HP 担当校）
立命館（会計校）

西日本部会庶務校（関西大学）伊藤信明氏が司会となり、役員会を開催した。

議 題 (1) 2014 年度総会・全国研究会の運営について

- ・事前に配布された全国研究会日程・役割分担表に基づき、総会・全国研究会の役割分担が確認された（総会・全国研究会日程・役割分担を参照）。未定であった総会副議長（西日本部会担当）の選出については、役員会後に開催する西日本部会幹事会で議論・決定することになった（幹事会の結果、大谷大学・松岡智美氏にお願いすることになった）。
- ・総会、講演後に開催する情報交換会について、会場校（桃山学院）西口忠氏から、開始時刻を 17 時 10 分に前倒しするとの案内があった。また情報交換会において、新入会校の紹介を行うことが司会担当の大阪大学・菅真城氏から報告があった。

(2) 2014—15 年度役員の交代について

- ・2014—15 年度の役員については、会長が広島大学、副会長が日本大学、事務局が関西大学に交代する予定であることが示された。

(3) 2014 年度の東西両部会の共同事業について

- ・2014 年度の叢書第 16 号の発行については、西日本部会で行うこととし、参加記を 3 名分（東日本部会 1、西日本部会 2）掲載することが確認された。2013 年度の叢書第 15 号は、担当の東日本部会により編集作業中で、発行後郵送するとの報告があった。

(4) その他

- ・日本大学・松原太郎氏から、

2016 年が全国大学史資料協議会 20 周年にあたるため、記念のプロジェクトを立ち上げるなら早く検討を進める必要があるとの意見が出された。

- ・明治大学・村松玄太氏から、全国大学史資料協議会リーフレットの改訂版について、現在東日本部会で作業中であり、今年度中には完成・配布できるとの報告があった。
- ・会場校（桃山学院）西口忠氏から、喫煙場所等、施設等の案内があった。

このほか、特に検討事項が出されなかったため、役員会を閉会した。

**全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録**

第 141 回 2014 年 10 月 8 日（水）

13 時 20 分～13 時 30 分

会 場 桃山学院昭和町キャンパス
カンタベリー記念館
カンタベリーホール

出 席 学習院 神奈川大学 慶應義塾
國學院大學 専修大学 東海大学
日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
西山 伸

議 題 (1) 2014 年度研究会概要・講演等記録の担当について

- ・事務局（明治大学）から、本日より開催される 2014 年度総会ならびに全国研究会について、標記の確認があった。

(2) 2014 年度研究会について

- ・事務局（明治大学）から、12 月研究会について、学習院が担当である旨および開催日時などの確認があった。

(3) 研究叢書および会報について

- ・研究叢書担当（日本大学）および会報担当（國學院大學）から、それぞれ編集状況の報告があり、発行に向けて引き続き作業を進めていくことにした。

第 142 回 2014 年 12 月 4 日 (木)

13 時～13 時 45 分

会 場 東京都公文書館 1 階会議室
出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
西山 伸 馬場 弘臣

進 行 事務局 神奈川大学 齊藤 研也
挨 拶 会長校 日本大学 小松 修
黙 祷 議事に先立ち、名誉会員であった故
東田全義氏 (11 月 2 日逝去) を追
悼し、出席者全員で黙祷を捧げた。

議 題 (1) 2014 年度総会・全国研究会の
総括について

- ・事務局 (明治大学) より、2014 年度総会ならびに全国研究会について、実出席状況の報告があった。西日本部会より送付された収支報告案について、修正申し入れをする旨説明があり、承認した。

(2) 2014 年度研究会について

- ・運営委員 (学習院) より、本日の第 92 回研究会について説明があった。
- ・会計委員 (専修大学) より、第 93 回研究会 (2015 年 1 月 22 日・神奈川大学) について説明があり、承認した。

(3) 旅費規程について

- ・事務局 (明治大学) より、会務出張旅費交通費支給内規として制定したい旨、提案があった。意見を踏まえて修正案を再提示し、持ち回りで審議することを承認した。

(4) 第 2 回大学史展について

- ・実行委員長 (西山伸氏) より、現在の状況及び追加アンケート実施について報告があった。第 143 回幹事会にて展示内容を審議したい旨提案があり、承認した。

(5) その他

- ・機関会員・実践女子学園の退会について、2014 年 11 月 26 日付けとすることを確認した。
- ・2015 年度部会総会について、担

当の東海大学より、2015 年 5 月開催に向け、会場提供を打診している旨、説明があった。

- ・第 16 回図書館総合展／学術オープンサミット 2014 後援の事後承認経緯について、事務局 (明治大学) より説明があった。
- ・研究叢書について、編集担当の日本大学より、2015 年早々の発送予定である旨報告があった。
- ・会報 “大学アーカイヴズ No.51” 発行について、編集担当の國學院大學より報告があった。
- ・リーフレット作成について、事務局 (明治大学) より状況報告があった。

第 143 回 2015 年 1 月 22 日 (木)

12 時 30 分～14 時

会 場 神奈川大学横浜キャンパス
1 号館 804 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教学院
西山 伸

議 題 (1) 2015 年度部会総会について

- ・担当 (東海大学) から、2015 年度部会総会について、早稲田大学を会場に検討を進めているとの報告があり、引き続き担当および事務局にて詳細をつめていくことにした。

(2) 2015 年度総会ならびに全国研究会について

- ・事務局 (明治大学) から、2015 年度総会ならびに全国研究会について、東北大学および東北学院大学を会場としたプログラムの設定例が説明された。次回の幹事会では、全国研究会のテーマについて検討することにした。

(3) 2014 年度、2015 年度研究会 (担当割)

- ・事務局 (神奈川大学) から、2015 年度の研究会および部会総

会などの分担について説明があり、研究会記録の執筆順番と合せて、担当割を確認した。

(4) 第2回大学史展について

・実行委員長西山氏から、第2回大学史展について、展示レイアウト・構成・経費・スケジュールなどに関する実行委員会の検討案の説明があった。展示構成などについては、幹事会メーリングリストや次回の研究会において引き続き意見聴取をすることにした。また、受付の設置や図録の作成・配布方法について検討し、まずこれらに関わる人件費や印刷費は提案通りの予算計上を行なうことにした。実際の受付業務の内容・分担や図録部数・体裁などについては、継続して検討することにした。

(5) 2015年度予算編成について

・会計担当（専修大学）から、2015年度の予算編成につき部会総会参加費の確認があった。検討の結果、昨年通りとすることにした。

(6) その他

・事務局（明治大学）から、澤木武美氏（神奈川大学）の名誉会員推薦にあたっての提案があり承認された。

・事務局（明治大学）から、会務出張における旅費交通費支給内規について、制定の報告があった。

・会計担当（専修大学）から、会費の納入状況について、機関会員は全会員が納付、個人会員は2会員の滞納があるとの報告があった。

・公文書等の管理に関する法律適用見直しに伴う会員からの要望について、西山氏から説明があり、引き続き検討することにした。

・事務局（明治大学）から、リーフレット作成の進捗状況について説明があり、西日本部会からの修正要望を確認して、武蔵野美術大学ヘデザイン案の検討をお願いすることにした。

・次回（第144回）幹事会は、2015年3月19日（木）、武蔵野美術大学新宿サテライトにおいて開催することにした。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録

名 称 全国大学史資料協議会 2014 年度
全国研究会
(第 91 回全国大学史資料協議会
東日本部会研究会)

テーマ 「学内業務文書の管理と活用」

日 時 2014 年 10 月 8 日(水)～ 10 日(金)

会 場 10 月 9 日 (木) 大阪大学
豊中キャンパス 大阪大学会館講堂
10 月 10 日 (金) 適塾・杏雨書屋

出 席 <東日本部会>
愛知大学 学習院 神奈川大学
慶應義塾 恵泉女学園 國學院大學
駒澤大学 淑徳大学 上智大学
女子美術大学 専修大学 拓殖大学
中央大学 東海大学 東北学院
東北大学 東洋英和女学院
富山大学 日本体育大学 日本大学
法政大学 北海道大学
武蔵野美術大学 明治大学
明星大学 立教学院 立教女学院
立教大学 早稲田大学
松崎 彰 阿部 伊作 谷本 宗生
富田 美加 西山 伸 古郡 信幸

<西日本部会>
追手門学院大学 大阪女学院
大阪大学 大阪府立大学 大谷大学
関西大学 関西学院 京都産業大学
近畿大学 熊本大学 甲南学園
神戸女学院 高野山大学 常翔学園
西南学院 同志社女子大学
同志社大学 梅花学園 広島大学
武庫川女子大学 桃山学院 立命館
龍谷大学
井上美香子 大畑 博嗣
落合万里子 橋本 弘之
橋本 唯子 藤吉 圭二
山本 尚史
(オブザーバー参加) 藤井亜希子
東日本部会 = 35 会員 52 名

(内訳:29 大学 46 名、個人他 6 名)

西日本部会 = 30 会員 40 名

(内訳:23 大学 33 名、個人他 8 名)

総 計 = 65 会員 92 名

(内訳:52 大学 79 名、個人他 14 名)

開会挨拶 広島大学 小池聖一氏

(全国大学史資料協議会会長)

全国研究会テーマ

「学内業務文書の管理と活用」

テーマ発題 関西大学 伊藤信明氏

(全国大学史資料協議会西日本
部会庶務校)

報 告 ①「広島大学文書館における法人文
書管理業務」

(広島大学文書館 村上淳子氏)

〔概要〕 本報告は、「① 広島大学文書館の概要」「② 文書管理業務の流れ」「③ 文書管理業務の変化」「④ 文書管理業務のこれから」から構成されていた。まず①では、広島大学文書館の施設・所蔵資料・組織についての紹介ののち、2014 年 6 月より全学の文書管理業務を文書館が担当することになったとの説明があった。②では、特に法人文書の評価選別移管作業についてくわしい説明があり、担当者が直接各業務組織に赴いて文書の確認、聞き取りなどを行うこと、廃棄文書の適切な廃棄を行うこと、移管文書の目録作成と配架などについて述べられた。③では、文書管理業務の一元化と効率化が実現したこと、文書作成者との密接な連絡をとり実情に即した対応をしていること、などの紹介があった。④では、移管すべき文書の絞り込みが課題となっていること、および学内の文書管理研修や所蔵資料の利活用を通じて文書館が核となる全学の文書管理を目指していくとの展望が示された。(西山 伸)

報 告 ②「学内業務文書の活用を考える」

(桃山学院史料室 西口 忠氏)

〔概要〕 本報告では、桃山学院の学内業務文書の活用の可能性と、具体的な事例が紹介された。

まず、開学以来の学内業務文書の

保存管理状況が、以下のように説明された。開学数年で業務の近代化が推し進められ、「桃山学院文書処理規程」を施行。移転後、業務文書が増大し、保管庫等での管理が困難となり、廃棄選別作業を実施。総務課にて、文書整理が検討されるようになり、勉強会や調査、全部署へヒアリングを実施。2012 年には、新たに文書取扱規程等を施行した。

次に、桃山学院の呼称・英語名が定まるまでの経緯、創立記念日に関する議論等を例として、学内業務文書の重要性が指摘された。

以上の内容をふまえ、授業利用、卒業生への情報開示、年史・記念誌等の提供協力、職員の他部署着任時用業務マニュアルといった、学内業務文書の具体的な活用案が示された。(本田希美子)

報 告 ③「学内業務文書をどのように把握・整理するかー学習院における試みー」

(学習院アーカイブズ

桑尾光太郎氏)

〔概要〕 最初に学習院アーカイブズの沿革について説明がなされた後、本報告の主題とも言うべき、学内業務文書の移管・整理の取り組み方、そしてその問題点や課題についての話があった。そのなかでも話の中心となったのが、学習院アーカイブズにおける学内業務文書の移管・整理方法である「文書ファイル管理簿」という取り組みである。現在、学内事務 36 部署中 28 部署で実施されているというこの方法は、各部署の業務改善のきっかけにもなっているという。

その一方で、課題として挙げられたのが収蔵・作業スペースはないこと、教学組織からの文書が移管体制を確立することが困難なこと、マンパワーの不足、移管文書の選別・整理方法の確立である。いずれも学習院アーカイブズだけでなく多くの大学が抱える問題である。こうした問

題を含めて各大学(特に私学の場合)が学内業務文書を保存していくために、何を優先させて取り組んでいくかは、その学校がそれぞれで判断すべきであるという結論で話が終えられた。(瀬戸口龍一)

総括討論

司 会 古野 貢氏(武庫川女子大学)
谷本 宗生氏(大東文化大学)

パネリスト

村上 淳子氏(広島大学文書館)
西口 忠氏(桃山学院史料室)
桑尾光太郎氏(学習院アーカイヴズ)

〔概要〕 総括討論は、古野貢氏、谷本宗生氏の司会進行で開始された。まず、3 報告に対する個別質問が行われ各報告者から回答と補足説明がなされた。次に3 者に対して全体に関わる質問が行われ、各報告者から回答がなされた。質問の内容は「業務に関わる職員の身分、必要な能力に関するもの」、「資料の選別、移管や廃棄の基準に関するもの」、「電子資料の保存方法について」などであった。質疑が長引き討議の時間が取れなかったが、全体を通じて以下のような共通認識を持って終了した。

学内アーカイブズのあり方は、各大学の方向性、考え方など大学の個性に依るところが大きい。大学の種別に関わらず共通する課題は、機関アーカイブズとして業務文書を管理し、学内で役に立つもの、組織の基礎を担うものという認識をいかに浸透させていくかということである。それには今回のような個別の事例報告から学ぶところが大きい。

(竹屋早月)

※各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第16号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 日本大学 小松修氏
(全国大学史資料協議会副会長)

見学会 適塾・杏雨書屋

〔概要〕 2014 年度全国大学史資料協議会総会・全国研究会の最終日10月10日(金)午前10時から12時まで、

見学会として、いずれも大阪市中中央区に位置する適塾、杏雨書屋を2班に分かれて見学した。

適塾とは緒方洪庵が開いた塾で、福澤諭吉をはじめ日本の近代化に貢献した幾多の人物を輩出したことで知られており、同塾跡は国史跡・重要文化財として認定されている。現在は大阪大学(適塾の後身)が所有しており、耐震工事が完了したばかりであった。見学会においては、洪庵の書簡や塾生資料(レプリカ)を中心に、2階の塾生大部屋では刀傷が付けられた柱などを見学した。

杏雨書屋は武田薬品工業株式会社社長五代目武田長兵衛が収集した日本・中国の本草医書の文庫をその原形とする。現在は公益財団法人武田科学振興財団によって図書資料館として運営されており、同書屋が所蔵する本草医書には国宝、重要文化財等が多数含まれている。見学会においては、所蔵品の常設展とともに、自動書庫や武田薬品旧社長室等も見学した。(古俣達郎)

第92回 2014年12月4日(木)

14時00分～16時30分

会 場 東京都公文書館 1階会議室
出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
国際基督教大学 淑徳大学
上智大学 専修大学 大東文化大学
拓殖大学 東海大学
東京女子医科大学 東京農業大学
東洋英和女学院 東洋学園大学
日本体育大学 日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教大学 立教学院 立教女学院
立正大学
松崎 彰 阿部 伊作 西山 伸
馬場 弘臣
(以上35名)

会長挨拶 小松 修

(日本大学広報部大学史編纂課)

司 会 桑尾 光太郎(学習院アーカイヴズ)

挨拶 東京都公文書館長 岡 秀子氏

概要説明 「東京都公文書館の活動概要・所

蔵史資料・検索システム等について」

(東京都公文書館史料編さん係
係長 西木 浩一氏)

「仮移転に際しての既存建物の転用について」

(東京都公文書館史料編さん
担当係長 佐藤 佳子氏)

見 学 収蔵施設見学

企画展示「人権の歴史とアーカイブズ
ハンセン病、隔絶の歴史
を超えて」

〔概要〕 まず東京都公文書館史料編さん係長・西木浩一氏より「東京都公文書館の沿革と所蔵資料の構成」として東京都公文書館の前史から同館開設時、公文書館法期、公文書管理法制定以降の時系列で主として「公文書」の扱いの変化を説明いただき、続いて同担当係長・佐藤佳子氏より「学校施設の転用による公文書等の保存管理について」として、今回の「仮移転」に伴う史資料の取り扱いと「学校施設」を転用した場合に実務的に生じた問題点や課題について、概要を説明いただいた。

その後、二班に分かれ詳細な解説を受けながら収蔵施設を見学した。元学校建物ということで害獣害虫問題や水漏れ等の問題も頻発、温湿度管理も非常に困難であったが、経費を抑えることを旨に、中性紙よりも格安な中性状態を保つ段ボールを利用し、適宜専門教室や図書室に手を加え活用している様子を見せていただいた。また各自で企画展や閲覧スペース等も見学、その後は質疑応答の時間が取られ、仮移転地における利用者状況などの質問がなされて活発な議論が交わされた。

(浅沼薫奈)

第 93 回 2015 年 1 月 22 日 (木)

14 時 30 分～16 時 45 分

会 場 神奈川大学横浜キャンパス
1 号館 804 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 関東学院

國學院大學 国際基督教大学
淑徳大学 専修大学 大東文化大学
東海大学 東京女子医科大学
東洋英和女学院 東洋学園大学
日本体育大学 日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
立教大学 立教学院 立教女学院
立正大学
石田 順二 中村 青志 西山 伸
古郡 信幸
(以上 40 名)

会長挨拶 小松 修

(日本大学広報部大学史編纂課)

司 会 瀬戸口 龍一

(専修大学総務部大学史資料課)

報 告 ①「創立者・神奈川大学史展示室について」

(神奈川大学大学資料編纂室

齊藤研也氏)

②「神奈川大学日本常民文化研究所
展示室について」

(神奈川大学日本常民文化研究所
窪田涼子氏)

③「企画展示室・近藤友一郎和船模
型の世界について」

(神奈川大学大学院歴史民俗資料
学研究科・神奈川大学日本常民
文化研究所 昆政明氏)

見 学 神奈川大学 3 号館展示ホール

〔概要〕 齊藤氏から 2014 年の 3 号館竣工に伴う神奈川大学史展示室の設置について、そのコンセプトや展示構成・各展示コーナーの概要・展示にあたっての論点等の説明が行われた。窪田氏からは日本常民文化研究所の活動概要と展示室開設までの経緯、常設展の構成について、続いて昆氏からは、大学における博物館展示の役割および神奈川大学が所蔵する船大工近藤友一郎氏による「近藤和船研究所コレクション」を紹介した企画展示室の設営について、それぞれ説明が行われた。

報告後、3 号館 1 階の展示ホールに移動し、大学史展示室・常民文化研究所展示室・企画展示室を見学した。展示ホールは学生や来学者が立

ち寄りやすい場所に設置され、大学史展示室にも学生生活関連の資料や写真パネルが多く使用されていた。会議室に戻り質疑応答が行われ、常設展示室が可動壁であることなど設備面・環境面での問題点、実物資料の展示とレプリカの作成、来場者数や学生の反応、収蔵スペースの問題点などについて活発な意見交換があった。

(桑尾光太郎)

全国大学史資料協議会 東日本部会会員名簿 (2015年1月22日現在)

【名誉会員】

竹市 知弘・城田 秀雄・鈴木 秀幸・
石田 順二・松崎 彰

【機関会員】担当部課室／住所・電話他

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ
医学情報センター (図書館)
〒480-1195 長久手市岩作雁又1-1
電話：0561-62-3311 (内) 11265
FAX：0561-62-3348
URL: <http://www.aichi-med-u.ac.jp/amua/>
- 2 愛知大学 豊橋研究支援課
〒441-8522 豊橋市町畑町1-1
電話：0532-47-4579
FAX：0532-47-4129
URL: <http://www.aichi-u.ac.jp>
- 3 青山学院 資料センター
〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25
間島記念館2F
電話：03-3409-6742
FAX：03-3409-8134
URL: <http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter>
- 4 学習院 学習院アーカイブズ
(運営委員)
〒171-8588 豊島区目白1-5-1
電話：03-3986-0221 (内 2531)
FAX：03-5992-1394
URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/ad/archives/>
- 5 神奈川大学 大学資料編纂室
(運営委員・事務局)
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
電話：045-481-5661
FAX：045-491-7915
URL: <http://archives.kanagawa-u.ac.jp/>
- 6 関東学院 学院史資料室
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
電話：045-786-7066
FAX：045-786-2932
URL: <http://www.kanto-gakuin.ac.jp>
- 7 国立音楽大学 校史資料室
〒190-8520 立川市柏町5-5-1
電話：042-535-9512
FAX：042-537-6356
URL: <http://www.kunitachi.ac.jp/>
- 8 慶應義塾 福澤研究センター
(運営委員)
〒108-8345 港区三田2-15-45
電話：03-5427-1604
FAX：03-5427-1605
URL: <http://www.fmc.keio.ac.jp>
- 9 恵泉女学園 史料室
〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1
電話/FAX：03-3303-6920
- 10 皇學館大学 研究開発推進センター
〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704
電話：0596-22-6471
(神道博物館代表)
FAX：0596-22-6463
- 11 國學院大學
校史・学術資産研究センター
(副会長)
〒150-8440 渋谷区東4-10-28
電話：03-3797-3684
FAX：03-5466-9237
URL: <http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/>
- 12 国際基督教大学 歴史資料室
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
電話：0422-33-3306, 3308
FAX：0422-33-3305
- 13 国士舘 国士舘史資料室
〒154-8515 世田谷区世田谷4-28-1
柴田会館2階
電話：03-3418-2691
FAX：03-3418-2694
URL: <http://www.kokushikan.ac.jp>

- 14 駒澤大学
 禅文化歴史博物館大学史資料室
 〒 154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1
 電話：03-3418-9613
 FAX：03-3418-9611
 URL: <http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/zenbunka/>
- 15 芝浦工業大学 経営企画部企画広報課
 〒 135-8548 江東区豊洲 3-7-5
 電話：03-5859-7070
 FAX：03-5859-7071
 URL: <http://www.shibaura-it.ac.jp>
- 16 自由学園 自由学園資料室
 〒 203-8521 東久留米市学園町 1-8-15
 電話/FAX：042-422-1097
 URL: <http://www.jiyu.ac.jp/>
- 17 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
 〒 260-8701 千葉市中央区大巖寺町 200
 電話：043-265-7526
 FAX：043-265-8310
 URL: <http://www.shukutoku.ac.jp/archives/>
- 18 上智大学 資・史料室
 〒 102-8554 千代田区紀尾井町 7-1
 電話：03-3238-3294
 FAX：03-3238-3539
 URL: <http://www.sophia.ac.jp>
- 19 女子美術大学 歴史資料室
 〒 166-8538 杉並区和田 1-49-8
 電話：03-5340-4658
 FAX：03-5340-4683
- 20 成蹊学園 史料館
 〒 180-8633 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
 電話：0422-37-3994
 FAX：0422-37-3298
 URL: <http://www.seikei.ac.jp>
- 21 成城学園
 教育研究所（成城学園百年史編纂室）
 〒 157-8511 世田谷区成城 6-1-20
 電話：03-3482-1484
 FAX：03-3482-5272
 URL: <http://www.seijogakuen.ed.jp/>
- 22 聖心女子大学 総務部
 〒 150-8938 東京都渋谷区広尾 4-3-1
 電話：03-3407-5811（代）内線 626
 FAX：03-3407-5856
- 23 聖路加国際大学 学術情報センター
 大学史編纂・資料室
 〒 104-0044 中央区明石町 10-1
 電話：03-3546-0770
 FAX：03-3546-3575
- 24 専修大学 総務部大学史資料課
 （会計委員）
 〒 101-8425 千代田区神田神保町 3-8
 電話：03-3265-5879
 FAX：03-3265-5923
- 25 創価大学 創価教育研究所
 〒 192-8577 八王子市丹木町 1-236
 電話：042-691-5623
 FAX：042-691-5654
 URL: <http://office.soka.ac.jp/faculty/edu-research/>
- 26 大東文化大学 大東文化歴史資料館
 （大東アーカイブス）
 （監査委員）
 〒 175-0083 板橋区徳丸 2-19-10
 電話：03-5399-7646
 FAX：03-5399-7647
 URL: <http://www2.daito.ac.jp>
- 27 拓殖大学 創立百年史編纂室
 〒 112-8585 文京区小日向 3-4-14
 電話：03-3947-7140
 FAX：03-3947-7294
- 28 玉川大学 教育博物館
 〒 194-8610 町田市玉川学園 6-1-1
 電話：042-739-8656
 FAX：042-739-8654
 URL: <http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 29 多摩美術大学 大学史編纂室
 〒 158-8558 世田谷区上野毛 3-15-34
 電話：03-3702-1168
 FAX：03-3702-9416
- 30 中央大学
 入学センター事務部大学史編纂課
 〒 192-0393 八王子市東中野 742-1
 電話：042-674-2132（直）
 FAX：042-674-2203
- 31 津田塾大学 津田梅子資料室
 〒 187-8577 小平市津田町 2-1-1
 電話：042-342-5219
 FAX：042-342-5249
- 32 帝京大学 博物館開設準備室

- 〒 192-0395 八王子市大塚 359 番地
電話：042-678-3675
FAX：042-678-3538
- 33 東海大学 学園史資料センター
(会計委員)
〒 259-1292 平塚市北金目 4-1-1
東海大学同窓会館 2F
電話：0463-50-2450
FAX：0463-50-2449
URL: http://www.u-tokai.ac.jp/shiryo_center/
- 34 東京家政大学
広報連絡会議（総務部総務課）
〒 173-8602 板橋区加賀 1-18-1
電話：03-3961-5226
FAX：03-3962-7135
URL: <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>
- 35 東京経済大学 図書館・史料室
〒 185-8502 国分寺市南町 1-7-34
電話：042-328-7955（史料室）
FAX：042-328-5900
URL: <http://www.tku.ac.jp>
- 36 東京女学館 史料編纂室
〒 150-0012 渋谷区広尾 3-7-16
電話：03-3400-0861
FAX：03-3407-5995
URL: <http://www.tjk.jp/>
- 37 東京女子医科大学
史料室・吉岡彌生記念室
〒 162-8666 新宿区河田町 8-1
電話：03-3353-8111（内 22213）
FAX：03-3353-8209
URL: <http://www.twmu.ac.jp/home/founder/yayoi.html>
- 38 東京女子大学
大学運営部総務課大学資料室
〒 167-8585 杉並区善福寺 2-6-1
電話：03-5382-6340（代表）
FAX：03-3395-1037
- 39 東京電機大学 総務部（企画広報担当）
〒 120-8551 足立区千住旭町 5 番
電話：03-5284-5125
FAX：03-5284-5180
URL: <http://www.dendai.ac.jp/>
- 40 東京農業大学 図書館事務課
〒 156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1
電話：03-5477-2526
FAX：03-5477-2546
- 41 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
(法人本部経営企画部)
〒 143-8540 大田区大森西 5-21-16
電話：03-5763-6697
FAX：03-3768-0660
URL: <http://www.archives.toho-u.ac.jp/>
- 42 東北学院 広報部広報課
〒 980-8511 仙台市青葉区土樋 1 丁目 3-1
電話：022-264-6423（代表）
FAX：022-264-6478
URL: <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>
- 43 東北大学 史料館
〒 980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1
電話：022-217-5040
FAX：022-217-4998
- 44 東洋英和女学院 史料室
〒 106-8507 港区六本木 5-14-40
電話：03-3583-3166（直）
FAX：03-3583-3329（直）
URL: <http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- 45 東洋学園大学 東洋学園史料室
〒 113-0033 文京区本郷 1-26-3
電話：03-3811-2840
FAX：03-3811-5176
URL: <http://www.tyg.jp/tgu/toyo/archiv.html>
- 46 東洋大学 井上円了研究センター
〒 112-8606 文京区白山 5-28-20
電話：03-3945-7564
FAX：03-3945-7606
URL: <http://www.toyo.ac.jp/site/enryo/>
- 47 獨協学園 獨協学園史資料センター
〒 340-0042 草加市学園町 1-1
電話：048-946-2800
FAX：048-942-4312
URL: <http://www.dac.ac.jp/>
- 48 富山大学 総務部総務グループ
〒 930-8555 富山市五福 3190
電話：076-445-6031
FAX：076-445-6034
- 49 南山学園 南山アーカイブズ
〒 446-0838 愛知県名古屋市中昭和区五軒家町 6 番地
電話：052-861-0613
FAX：052-861-0614

- URL: <http://www.nanzan.ac.jp/archives/>
- 50 日本医科大学
図書館(史料館(仮称)設立準備室兼任)
〒113-8602 文京区千駄木 1-1-5
日本医科大学中央図書館
電話: 03-5814-6949
FAX: 03-3822-2405
URL: <http://libserve.nms.ac.jp/>
- 51 日本女子大学 成瀬記念館
〒112-8681 文京区目白台 2-8-1
電話: 03-5981-3376
FAX: 03-5981-3378
URL: http://www.jwu.ac.jp/unv/facilities/naruse_memorial/
- 52 日本体育大学 図書館
〒158-8508 世田谷区深沢 7-1-1
電話: 03-5706-0907
FAX: 03-5706-0913
URL: [http://library.nittai.ac.jp/lib/~index.html](http://library.nittai.ac.jp/lib/~/index.html)
- 53 日本大学 広報部大学史編纂課(会長)
〒359-0003 所沢市中富南 4-25
電話: 04-2996-4555
FAX: 04-2996-4592
URL: <http://www.nihon-u.ac.jp>
- 54 法政大学 法政大学史センター(運営委員)
〒102-0073 千代田区九段北 3-2-8
一口坂校舎 3 階
電話: 03-3264-6501
FAX: 03-3264-6504
URL: <http://daigakushi.ws.hosei.ac.jp/>
- 55 北海道大学 大学文書館
〒060-0808 札幌市北区北 8 西 5
北海道大学附属図書館 4 階
電話/FAX: 011-706-2395
URL: <http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>
- 56 武蔵学園 記念室
〒176-8533 練馬区豊玉上 1-26-1
電話: 03-5984-3748
FAX: 03-5984-4785
URL: <http://www.musashi.jp/archives>
- 57 武蔵野美術大学 大学史史料室(監査委員)
〒187-8505 小平市小川町 1-736
電話: 042-342-6091
FAX: 042-342-9547
URL: <http://www.musabi.ac.jp/history>
- 58 明海大学
浦安キャンパスメディアセンター(図書館)
〒279-8550 浦安市明海 1 丁目
電話: 047-350-4997
FAX: 047-355-7992
URL: <http://opac.meikai.ac.jp/opac/>
- 59 明治学院 歴史資料館
〒108-8636 港区白金台 1-2-37
電話/FAX: 03-5421-5170
URL: <http://www.siryokan.meijigakuin.jp/>
- 60 明治大学 大学史資料センター(運営委員・事務局)
〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1
電話: 03-3296-4085・4329
FAX: 03-3296-4086
URL: <http://www.meiji.ac.jp/history/>
- 61 明星大学 明星教育センター
〒191-8506 日野市程久保 2-1-1
電話: 042-591-6534
FAX: 042-591-6949
- 62 立教大学 立教学院史資料センター
〒171-8501 豊島区西池袋 3-34-1
電話/FAX: 03-3985-2790
URL: <http://www.rikkyo.ne.jp/web/z3000450/index.html>
- 63 立教学院 立教学院展示館事務局(運営委員)
〒171-8501 豊島区西池袋 3-34-1
電話/FAX: 03-3985-4841・4847
URL: <http://www.rikkyogakuin.jp/hfr/>
- 64 立教女学院 資料室
〒168-8616 東京都杉並区久我山 4-29-60
立教女学院法人事務部内
電話: 03-3334-5105
FAX: 03-3334-8393
- 65 立正大学 学長室大学史料編纂課
〒141-8602 品川区大崎 4-2-16
電話: 03-3492-2690
FAX: 03-5487-3339
URL: <http://www.ris.ac.jp>

66 早稲田大学 大学史資料センター
〒 202-0021 西東京市東伏見 3-4-1
東伏見 STEP22
電話：042-451-1343
FAX：042-451-1347
URL: <http://www.waseda.jp/archives/>

31 松山 龍彦（国際基督教大学学生サービス部）
32 三浦 和己（株式会社 IMAGICA 東京映像センターフィルムプロセス部）
33 山崎 裕子（国立女性教育会館情報課）
34 吉川 隆博

【個人会員】

- 1 阿部 伊作（東京基督教大学図書館）
- 2 安藤 正人（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）
- 3 伊藤 純郎（筑波大学人文社会系）
- 4 上田 紘代（東京女学館中学校・高等学校）
- 5 内山 宏（日本図書館協会・日仏図書館情報学会・経済資料協議会）
- 6 大沢 泉（八戸大学）
- 7 小川千代子（国際資料研究所）
- 8 神谷 智（愛知大学文学部）
- 9 北村 和夫（聖心女子大学文学部）
- 10 工藤 元（株式会社ニチマイ）
- 11 倉方 慶明（東京外国語大学）
- 12 坂口 貴弘（京都大学大学文書館）
- 13 清水 善仁（神奈川県立公文書館）
- 14 下田 尊久（藤女子大学図書館情報課程）
- 15 高橋 保（河北印刷株式会社）
- 16 谷本 宗生（大東文化大学）
- 17 寺崎 弘康（神奈川県立歴史博物館）
- 18 富田 美加（茨城県立医療大学）
- 19 豊田 徳子（東洋大学校友会）
- 20 中村 青志（東京経済大学）
- 21 中村 治人（岡崎女子短期大学）
- 22 西山 伸（運営委員・京都大学大学文書館）
- 23 野澤 和範
- 24 橋本久美子（東京芸術大学総合芸術アーカイブセンター大学史史料室）
- 25 馬場 弘臣（副会長・東海大学教育研究所（学園史資料センター兼任））
- 26 藤田 正（愛媛県歴史文化博物館）
- 27 藤田 茂（情報・システム研究機構統計数理研究所）
- 28 古郡 信幸（清泉女子大学）
- 29 細見 大作（細見工業株式会社）
- 30 堀田慎一郎（名古屋大学大学文書資料室）

訃 報

東日本部会名誉会員の東田全義さんが、2014 年 11 月 2 日に逝去されました。

東田さんは、慶應義塾福澤研究センターにて事務長として勤められ、一貫して協議会の活動に貢献されました。

ここに謹んで東田全義さんへ哀悼の意を表します。

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【神奈川大学 大学資料編纂室】

〒 221-8686
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
☎ 045-481-5661

【明治大学史資料センター】

〒 101-8301
東京都千代田区神田駿河台 1-1
☎ 03-3296-4085

会 報 編 集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】

〒 150-8440
東京都渋谷区東 4-10-28
☎ 03-5466-6677